

能力開発施設を利用する配慮を要する 受講者の就職支援について

- 石井 尚希（山形職業能力開発促進センター 受講者係）
- 須藤 仁志（山形職業能力開発促進センター 就職相談員）
 - 高柳 裕子・桑原 博一（山形職業能力開発促進センター 就職支援アドバイザー）
 - 瀬戸 文善（山形職業能力開発促進センター 就職相談員）
 - 鈴木 菜津美（山形職業能力開発促進センター 受講者係長）

はじめに

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下、「機構」）山形支部山形職業能力開発促進センター（以下、「ポリテク山形」）は公共職業訓練の実施施設である。

機構は国のセーフティネットとして就職支援に力を入れている。

「精神疾患・発達障害のある者」「それらが想起される行動特性のある者」について「配慮が必要な訓練受講者」（以下、「配慮受講者」）として支援することとしている。

ポリテク山形で取り組んできた「配慮受講者の支援」について報告する。

1 ポリテク山形の就職支援

(1) 就職支援体制

就職支援アドバイザー 2 名（キャリアコンサルタント）

受講者のキャリア形成に係る相談を行う

訓練科の担当を決めて担任と密に連絡を取りながら
就職支援を行っている

就職相談員 2 名

窓口での相談の他、求人票の各科への配布や掲示、
ホームページに掲載する求職情報の作成と指名求人の
提供、企業説明会の実施などを中心に支援

各科の職業訓練指導員

1 ポリテク山形の就職支援

(2) 就職支援の方法

入所後	支援内容
1ヶ月目	就職支援アドバイザーの面談 (前職までの棚卸、就職活動の相談)
2ヶ月目	就職ガイダンス1 (就職活動の進め方・応募書類準備・訓練の関連職種の確認等)
3ヶ月目	就職ガイダンス2 (面接練習等)
4ヶ月目	求職情報をHPで発信 (希望の職種・給与・勤務地、自己PRなど)
5ヶ月目 6ヶ月目 修了後 3ヶ月間	受講生の活動に合わせた支援 ・企業への見学、条件緩和の調整 ・無料職業紹介 ・応募書類の作成、模擬面接

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(1) ポリテク山形における配慮受講者の現状

表2 入所者数・配慮受講者数の推移等 R6/6/30現在

年度	入所者数	配慮受講者		配慮受講者合計	配慮受講者			病状悪化退所者数	その他退所者数 (就職退所以外)	退所を除いた就職率
		障害・病気のある者 ①③	疑いがある者 ②		入所者割合	就職者数	就職率			
R3	130	15	8	23	17.7	17	73.9	3	2	94.4
R4	176	19	3	22	12.5	17	77.3	1	1	85.0
R5	184	16	4	20	10.9	10	—	3	0	—

ポリテク山形では、配慮受講者として①「精神疾患・発達障害のあるもの」及び②「それらが想起される行動特性のあるもの」に加えて③「身体障害他、難病のあるもの」を併せて支援を行っている。

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(1) ポリテク山形における配慮受講者の現状

表 3 障害・病気の内訳 R6/6/30現在

年度	うつ病	双極性障害	発達障害	統合失調症	パーソナリティ障害	不安症／適応障害／パニック障害	てんかん	難病	その他精神疾患	身体障害他	合計
R3	2	3	3	2	1	1	1	0	0	2	15
R4	2	1	1	1	0	2	2	3	0	7	19
R5	4	1	3	1	1	3	0	2	1	0	16

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(2) 配慮受講者の把握

配慮受講者は次の方法で把握している。

＊開示する者が多い

- ①受講申込書に「**健康上の不安**」
- ②受講生緊急連絡票の「**持病**」
- ③就職相談票に「**就職する際の不安**」
- ④入所選考や就職に係る各種面談の中で開示
- ⑤各種面談や手続き場面、訓練受講場面等の観察

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(3) 配慮受講者の就職支援

配慮受講者については次の支援をプラスして行なっている。

① 配慮受講者のための「初回面談」

- ・ 症状や受診状況、訓練受講に係る配慮事項の有無、前職までの仕事への影響等を配慮受講者に聴取
- ・ 職業訓練指導員及び就職支援担当者間で情報共有することについて承諾を得る
- ・ 配慮受講者に係る就職支援、障害者就労支援機関について説明

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(3) 配慮受講者の就職支援

① 配慮受講者の訓練の継続と就職支援

ア 訓練受講の継続についての配慮

“就職活動を進める前提、体調管理・訓練受講の継続が重要”

- ・ 常に観察し、何かあれば声がけ
- ・ 座席変更、過集中の方に水分補給の促し
- ・ ノイズキャンセリングイヤホンの使用許可、補習の実施

イ 職種選択の再検討

習得が困難、更に本人にも困り感がある場合

- ・ 経験した職種についての振り返りを行い、職場環境・通勤距離・勤務形態等について整理、希望の求人を探すよう支援
- ・ 求人提供、企業訪問を調整し自分での環境確認をすすめる

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(3) 配慮受講者の就職支援

① 配慮受講者の訓練の継続と就職支援

ウ 障害者雇用に係る情報提供

障害者手帳を持つ配慮受講者または開示していないが障害があるという受講者のために

求人コーナーに下記情報を設置・掲示している

「障害者専用の求人票のファイル」

「関係の支援機関についての情報」



2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(3) 配慮受講者の就職支援

①配慮受講者の訓練の継続と就職支援

エ メンタルヘルスについての情報提供

ハラスメント被害などの職場の人間関係による離職
精神疾患の病状悪化によるポリテク退所者
が多く見受けられる。

体調管理の方法や特性への気づき、就職後の定着の
ために下記について実施している

- ・就職支援のセミナー「職場における人間関係とメンタルヘルス」
- ・求人コーナーの掲示板にセルフケア、アサーション、アンガーコントロール、認知行動療法、発達障害などの資料の掲示



求人コーナー
メンタルヘルス・職場のコミュニケーション・アンダーコントロール・認知
行動療法・発達障害等についての掲示

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(3) 配慮受講者の就職支援

① 配慮受講者の訓練の継続と就職支援

オ 専門機関との連携による支援

専門機関と連携し、以下の支援に繋がっている。

(ア) 障害者就業・生活支援センター

障害を開示して就職活動を行う配慮受講者について、応募の際からの支援と就職後の定着支援、障害者手帳取得の支援などを依頼

(イ) 山形障害者職業センター

職業評価による応募職種の再検討、障害特性を整理する支援などを依頼

(ウ) ハローワーク専門援助部門

障害者雇用、援護制度を活用した就職を希望する場合の紹介状の発行などを依頼

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(3) 配慮受講者の就職支援

① 配慮受講者の訓練の継続と就職支援

力 困り感がなく不採用を繰り返す配慮受講者の支援

- ・ 企業見学の調整、面接練習を繰り返し実施
- ・ 紹介状の発行先であれば、採用担当者に不採用理由を確認して本人に伝えることも（不採用理由は面接時の受け答えに対する違和感や不安感）
- ・ 面接練習時に撮影した動画を本人と確認、応答内容に加え、応答時間や姿勢、視線の向け方などについて改善を促すなど

2 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(4)配慮受講者の就職支援の実績 “成果”

退所者を除く就職率

令和3年度 94.4%、令和4年度 85.0%

正社員就職率

令和3年度 64.7% 令和4年度 64.7%

受講した訓練と関連する就職

令和3年度 52.9%、令和4年度 58.8%

ポリテク山形全体では・・・令和3年～令和5年の平均

就職率 85.2%

正社員就職率 62.6%

訓練と関連した就職率 59.3%

おわりに

訓練習得などで課題が見つかるものの、本人に自覚がない場合の支援が難しい。

よりきめ細やかな支援を行うため、障害者職業総合センターの成果物を参考に、簡易版のアセスメントシートを作成した。観察によるアセスメントを行い、特性への気づきを促すことや補習の実施・職種の見直しなど、支援の手がかりを見つけることとしたい。

障害や病気以外の生活課題のある方（生活困窮者、ひとり親家庭の父母、職業ブランクの長い方など）も多く受講している。個別の事例に合わせた丁寧な支援を行うことで多くの利用者に貢献したい。